



広報
No.179

かんおんじ

2020 / 令和2年

9

September

梨の季節が

キタ

ー

特集

梨の季節がやってきた

ホウナンの梨 主要品種の収穫期と味の違い

| 品種 | 8月上旬 | 8月中旬 | 8月下旬 | 9月上旬 | 9月中旬 | 9月下旬 | 10月上旬 |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 幸水 | ■ | ■ | | | | | |
| 豊水 | | | ■ | ■ | ■ | | |
| 二十世紀 | | | ■ | ■ | ■ | | |
| あきづき | | | | ■ | ■ | ■ | ■ |
| 新高 | | | | | | ■ | ■ |

- 幸水** しゃっきりとした食感と上品な香りに高い糖度。最も人気のある品種
- 豊水** 果実が大きく、多汁で酸味と甘みのバランスが良く、豊かな食味
- 二十世紀** 100年以上の歴史がある品種。黄緑色の果皮で果肉は柔らかく、多汁で甘みがある
- あきづき** 果肉が柔らかく多汁で糖度が高く酸味が少ない。新高・豊水・幸水の人気品種の掛け合わせ
- 新高** 柔らかくて甘みも強く香り高い。大きくて見栄えが良いので贈り物にも重宝されている

豊浜町和田地区で収穫される梨は、「ホウナンの梨」として100年以上の歴史を誇ります。春ごろの低温期や長雨の影響で、例年より出荷が少し遅れたものの、8月上旬から梨の出荷が始まりました。

ホウナンの梨の主要品種は、幸水、豊水、二十世紀、あきづき、新高の5品種。主に10月上旬まで出荷が続きます。

果樹は野菜とは異なり、収穫時期が年にたった1回。梨農家の皆さんは夏の収穫

に向けて、冬から準備を始めています。

豊南地区梨部会の川上益弘さんは、「農業は自然と対話する仕事。近年、大雨などの異常気象が当たり前になっており、作業工程を立てるのが難しい。不安は常に抱えている」と話します。ことしは、大きな災害は起きておらず、無事に収穫・出荷作業が続けられています。

年に一度、この時期だけの自然の恵みを、大切に味わいましょう。

特集 梨の季節が やつてきた

豊浜町和田地区で生産されているホウナンの梨。この地域は県内唯一の梨の生産地です。ホウナンの梨は、さぬき讚フルーツや観音寺ブランドに推奨・認証されており、高い品質を誇ります。シーズン真っ盛りの中、産地としてことしで111年を迎えるホウナンの梨の魅力をお伝えします。



直売所が9月下旬までオープン



1 直売所では梨果汁たっぷりのソフトクリームも販売しており、大人気 2 8月11日にはさぬき讚フルーツ大使が直売所で梨をPRしました 3 選果場では目で状態をチェックし、糖度や重さ、傷みなどをセンサーで判別します 4 20人くらいで選果・出荷作業を行っています

ホウナンの梨直売所
(豊浜町和田甲460 J A香川県豊南地区 営農センター和田事業所内)
☎52-2161 ⑤56-3014
営業期間：9月下旬ごろまで
営業時間：午前8時30分～午後4時30分
定休日：無休

＼ 梨との巡り合わせを楽しんで ／

point!

JA香川県 合田陽明さん

黄金色で表面のざらざらがとれた梨が食べごろです。一定以上の糖度の実を出荷していますが、食味の好みは人それぞれなので、満足するものもあれば物足りないものもあるでしょう。でも、それが果物との巡り合わせ。果物を食べる面白さです。

梨の加工品いろいろ

Check!

道の駅とよはまでは、ホウナンの梨の果肉が入った梨ヨーグルトアイス販売。梨を使った焼き肉のたれは、上記直売所や道の駅ことひき、とよはまで販売しています。



3 土砂が梨畑に流れ込み、壊滅的な被害を受けた(平成16年) 4 生育が早く作業がしやすい「ジョイント栽培」を研究 5 豊浜小学校の体験学習

ホウナンの梨は、たびたび病気や災害に見舞われてきました。昭和25年(1950年)の黒斑病のまん延や昭和53年(1978年)の干害、その後も、数年ごとにひょうや台風による落果被害を受けています。平成16年(2004年)には、集中豪雨や相次ぐ台風により、土砂崩れや山崩れが起き、多くの梨畑が土砂で埋もれるなどの被害に遭いました。この災害により、当初は50ヘクタールあった栽培面積のうち、25ヘクタールが被害を受けました。災害を機に梨作りを辞

める人も多かったです。その後、33ヘクタールまで回復しましたが、高齢化や後継者不足で現在は23ヘクタールほどになっています。ホウナンの梨を守り続けていくため、主力品種の幸水に代わる新品种や、作業効率の良い栽培方法の研究が進められています。また、地元小学生の作業体験などを通して、産地の誇りや梨作りの魅力を伝える活動も行っています。県内唯一の梨の産地を守り続けていくために、生産者の取り組みは続きます。



1 昭和29年(1954年)ごろ、梨生産者の集合写真 2 梨畑の多くは、大谷山の急斜面にある。斜面での作業には苦勞が伴うが、見晴らしの良さは格別

「梨の郷」の歴史

豊浜町の南東部にある大谷山の西斜面一帯に梨畑が広がり、「梨の郷」と呼ばれています。

ホウナンの梨の生産者は38軒。豊浜町和田地区(大坪、院内、梶谷)に37軒と大野原町花稻地区に1軒の梨農家があります。

明治42年(1909年)に川上今太郎氏、川上武平氏が日本ナシを植えたのが、豊浜地区の梨栽培の始まりで、その後昭和7年(1932年)に大谷山林開墾組合が113人で組織され、翌年から大谷山の20町歩を開墾して梨やミカンなどの果樹畑を整備しました。豊浜町の山麓地帯は、県境の大谷山から海岸線までの距離が短いため水源に恵まれず、年間の降水量も少ないことから、「米は3年に一度しかとれない」と言われた地域でした。そのため、干ばつに強い梨に注目し、山を切り開いて梨畑を広げていく取り組みが続けたといわれています。

32年)に大谷山林開墾組合が113人で組織され、翌年から大谷山の20町歩を開墾して梨やミカンなどの果樹畑を整備しました。

豊浜町の山麓地帯は、県境の大谷山から海岸線までの距離が短いため水源に恵まれず、年間の降水量も少ないことから、「米は3年に一度しかとれない」と言われた地域でした。そのため、干ばつに強い梨に注目し、山を切り開いて梨畑を広げていく取り組みが続けたといわれています。

12月~2月 ← 7月下旬~10月上旬 ← 6月

枝の剪定

翌年の梨作りに向けて、作業開始。枝の剪定をし、棚付けしていきます。

手作業で1個ずつ丁寧に収穫します。地元のたんぼぼ保育園では、毎年子どもたちが梨狩りを行っています。



上手に採れたね

収穫

梨らしくなってきた!



梨の大敵である害虫。袋や防蛾灯で被害を防ぎます。7月ごろから梨畑に防蛾灯がともると、幻想的な風景が広がります。

袋掛け

← ← ← 5月 ← ← ← 4月

摘果

まだ、こんなに小さい



受粉後2週間ほどすると、オリーブくらい大きさの実が各枝に5~6個できます。良い実を育てるため、どの実を残すかを考えながら、5月中に摘果作業を行います。



見極めが大事

受粉

1個の梨を収穫するまでを見てみましょう。手間暇が掛かる梨作り。



3月下旬ごろに花粉を採っておき、4月上旬に梨の花が咲くと受粉作業開始。付け忘れを防ぐため、食紅で色を付けた花粉を付けていきます。



ちんちんと...

真っ白な梨の花



梨ができるまで

INTERVIEW ホウナンの梨を作る人たち

みんなでいいものを作って売ろうとする、こういう地域はなかなかない。



大廣 公彦さん
久美子さん

東かがわ市出身の公彦さんは3年前に会社を退職し、久美子さんの実家の梨農家へ転職。夫婦で梨作りを行っています。



大廣 保さん

梨農家の次男として生まれた保さん。54年前に山を開墾して植えた梨の木(写真)は、今も千個以上の実を付けます。

一年苦労したのに、出荷できないときもある。でも、それはホウナンの梨の基準を守るために大切なこと。

30歳で独立し、山を開墾して自分の果樹園を整備しましたが、何も分からず困っていた私を、先輩方や笠田高等学校の関先生が親身に指導し、大事にしてくれました。最初のころは経営が苦しく作業も大変で、家内はよく付いてきてくれたと思います。

朝5時に起きて7時半には梨畑で作業をします。途中休憩を挟みますが、夜帰るのは午後7時過ぎ。開墾していた当時に過労のせいか入院したくらいで、現在まで医者から「何も悪いところがない」と言われるくらい丈夫です。山で仕事しているから元気でいられるのかもしれない。毎日大きくなる果実を見るのは楽しみです。

一年苦労したのに、良い梨ができないと情けない時もあります。見た目が綺麗でも糖度の低いものは出荷できません。でも、それはホウナンの梨の基準を守るために大切なことです。

地域の祭りやスポーツチームなどで、以前から梨農家のみんなと付き合いがあり、「早く梨農家になれよ」と誘われていました。退職後は、世代を問わず遠慮なく聞きに行つて、ノウハウをいっぱい教えてもらいました。

ある時、業者さんから「自分だけではなく、みんなでいいものを作って売ろうとする、こういう地域はなかなかない」と言われ驚きました。自分はこじし知らないの当たり前だと思っていました。

梨作りは大変ですが、季節を感じながら仕事できる喜びもあります。勤めていた頃は首や腰を痛め、手術が必要くらいでしたが、今は体調が良いです。

年配の人は、今も新しい梨の苗を植えていて「続けるぞ」というやる気を感じます。地域で協力しながら、できるだけ長く梨作りを続けていきたいと思っています。

100年以上続いてきた、梨の産地を守り続ける

豊南地区は雨が少なく気温が高い瀬戸内海式気候。加えて、傾斜地に畑があり水はけが良いため、県外の地域と比べて糖度が高い梨を作ることができます。梨は他の果樹と比べ、とても手間が掛かりますが、生産者には、甘くておいしい梨を作る喜びとそれをおいしく食べていただける喜びとの2つの喜びがあります。

100年以上続いてきた歴史の重みは感じますが、最近30代後半から40代前半の若手後継者も増えてきました。これからもみんなが梨の産地を守り続けていきたいと思っています。



豊南地区梨部会 部会長
川上 益弘さん

曾祖父の武平さんは、この地に初めて梨を植えた一人。

みんな、ええもんを。梨部会の工夫や取り組み



若手生産者が中心の「生産部」では、定期的に会議を開き、情報共有を行う。

70代以上の先輩方が元気に頑張ってくれています。若手で引き継いでいきたいですね。



あちこちに建てられている梨部会の掲示板。害虫の発生情報や果実の生育情報などを生産者で共有している。掲示板の前に集まり、情報交換している光景がよく見られる。

生産部長 横山 浩一さん